

◆事業方針（計画等における位置づけ）

- ・現状の出前授業を中心とした授業支援に加え、学校のニーズに沿ったきめ細かな支援が行えるよう、小・中学校に地域学校応援団を順次設置し、より一層の地域人材の活用による学校と地域の連携強化を目指す。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

- ・教科や総合的な学習の時間等における外部講師の派遣
- ・職場体験の活動場所の紹介
- ・学校のニーズに即した活動（地域学校応援団設置校）
 - ※「豊富な人材資源、多様な地域団体、社会貢献を望む企業等」が多く存在し、それらの協力を得て、児童および生徒が豊かな体験や専門的かつ本物と出合える豊富なプログラムを提供できるのは、港区の大きな特徴。

◆運営委員会

- ・「港区社会教育委員の会議」において年2回程度、事業の運営等について協議している。
- ・地域コーディネーター配置校に「地域学校応援団運営協議会」を設置している。

◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

- ・事業の取組をさらに広め、理解してもらうために下記の取組を行っている。
「港区ホームページ」掲載、「事業周知パンフレット」「みなと学校支援情報」（出前授業及び職場体験の案内冊子）を作成し、学校や協力企業等に配布。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

- ・地域コーディネーターの配置に伴い研修会を実施。引き続きコーディネーター研修会を実施し、コーディネーターのレベルアップを図るとともに、他校コーディネーターとの交流も図っていく予定。
- ・「みなと学校支援ニュース」を発行し、全教職員に配布。

◆成果

- ・教育内容を熟知している学校支援統括コーディネーターが出前授業を参観し、学習指導要領に基づく専門的な助言を行うことで、効果的なプログラムへと発展させることができるため、児童や生徒にとってもより質の高い内容となっている。

【出前授業シート数】189シート

【職場体験協力事業所数】70者

- ・地域コーディネーターの配置（中学校3校、小学校6校）により、学校昇降口の装飾、夏講座の実施、児童の作品展示、学校行事支援等の学校ニーズに即した活動が可能となった。

◆課題・展望

- ・引き続き、現在行っている学習支援を継続しながら、順次各校に地域学校応援団を設置し、学校のニーズに即した活動を行う。
- ・他のボランティア団体との役割分担を明確にし、協力体制を図る必要がある。
- ・より多くの地域ボランティアに参画してもらえるように地域へ事業周知を図る。

